

航空衛星通信実験

航空衛星通信サービスを早期に導入するため、郵政省と日本航空の協力で、2段階にわたる航空衛星通信実験を実施した。第1段階の実験は、1987年（昭和62）10月～88年3月に実施し、国際線旅客機に搭載したAES（航空機地球局）装置と、KDD茨城衛星通信所に設置したGES（航空地球局）装置との間で行われた。第2段階の実験は、90年9月～12月にかけて実施された。実験装置には航空機内の収納ラックに設置できる実用レベルに達したものを設計、使用した。アンテナはコンフォーマル型フェーズドアレイタイプであり、機体の左右に各1面、計2面装着された。飛行試験は計12回行われ、おおむね円滑な通話が実現された。これら2段階にわたる航空実験により、航空衛星通信は実用化された。

出典：KDD社史